

## 平成26年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～セ)と組織標本(1～12)を選んで[ ]に記入しなさい。

(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では( )に生じる割合が多い。母斑との鑑別診断ではABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、Dの意味は( )である。この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる( )を行う場合がある。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。また、この疾患の手掌・足底のダーモスコープ所見の写真は[ ]である。

2. 湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に( )がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )や( )と誤診されることがある。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

3. 多くは顔面に生じる腫瘍で、転移はほとんどない。しかし局所侵襲性は強く、( )まで浸潤する例もある。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。この腫瘍細胞の辺縁では組織写真[9]の細胞の配列が特徴的で、これを( )と呼ぶ。また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

4. 糖尿病性潰瘍の多くは足部に生じるが、これが合併する( )によって生じる場合の臨床写真は[ ]で、治療は( )である。一方、合併する( )によって生じる場合の臨床写真は[ ]で、治療は( )であるが、進行して潰瘍が拡大する場合は( )が必要になる場合もある。これらの最初に行うべき鑑別方法は、( )である。虚血性足病変の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、( )分類の( )度である。

5. 静脈性潰瘍の多くは( )に生じ、難治性であるが、これには( )によるものと、( )によるものが多い。臨床所見はよく似ていて、その写真は[ ]で、これらに最初に行うべき重要な治療法は( )である。

6. 植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは全層植皮で、この植皮法には( )という長所があり、( )という短所がある。もう1つは分層植皮で、この長所は( )しやすい点である。しかし( )という短所がある。分層採皮された採皮部は、( )から表皮化が生じていく。

3年生( )番 氏名( )